

2015.3.14 (土) 14:00~15:30

於：大田文化の森 第2集会室

記念館講座 ～龍子・熊谷恒子・山王草堂・尾崎士郎記念館の学芸員による講演～

第3回 「川端龍子／激動の時代をこえて」

大田区立龍子記念館 学芸員 木村 拓也

■日本画家・川端龍子について

- 1885 (M18) 年 和歌山市に生まれる (本名：昇太郎)。←今年生誕 130 年です。
- 1904 (M37) 年 白馬会・太平洋画会で学ぶ ←もともとは洋画家だった。
- 1913 (T2) 年 渡米、帰国後に日本画科に転向 ←海外で日本文化に目覚める
- 1915 (T4) 年 《狐の径》で再興第2回日本美術院に入選 ←龍子 30 歳の時
- 1929 (S4) 年 院展脱退の翌年、自らの美術団体青龍社を設立←青龍展は 37 回
- 1963 (S38) 年 文化勲章受章と喜寿を記念し、龍子記念館を設立
- 1966 (S41) 年 4月10日 80歳で逝去。

↓

本日は、関東大震災、戦中、戦後をピンポイントに焦点をあてていきます。

1. 関東大震災を境に (龍子の 1920 年代)

■《狐の径》で再興日本美術院 (院展) に初入選 (1915 年)

- ・画面いっぱい、曼珠沙華、穴からひょっこり狐の姿 →琳派の影響と鮮やかな色彩の作品
- ・今村紫紅、下村観山が高い評価をするものの反発もあった →大観が強く後押し
- ・入選3年目にして、破竹の勢いで院展の同人に推挙される →注目の若手

■院展での龍子の活躍ぶり

- ・「一に川端、二に龍子」展覧会の季節はなにをするにも重用された →大観の絶大な信頼
- ・関東大震災の時、地震発生当初の冷静な対応が新聞で紹介されるほど注目の人物に
→《狐の径》は関東大震災のときに焼失してしまう

■横山大観との決別

- ・震災以降、龍子作品は力強く巨大化する傾向 →院展内で異色の存在に
- ・1928年院展を脱退、翌年青龍社を設立。第1回青龍展は院展と同会場、ほぼ同時期に

↓

大観「君、嫌なことをしてくれるね」 この時以来、二人の交流は途絶える

2. 戦争と画家 (龍子の 1930~40 年代)

■青龍社設立以降の龍子作品

- ・作品をより大きく、鮮やかでわかりやすいテーマに →「会場芸術主義」の実践
- ・1940年会場を美術館から、百貨店 (三越) へ →美術を大衆に開放されたものへ

- ・時代性を捉えた連作の発表 →元新聞記者のジャーナリスト的視点、龍子独自のウィット
「太平洋」連作（1933-36）、「大陸策」連作（1936-40）、「南方篇」連作（1942-44）など

■第13回春の青龍展《八ッ橋》（1945年）

- ・各美術展が中止される状況で開催 →決めたことは必ず実行する龍子の強い意志
- ・会場は龍子と弟子の画室を利用した →芸術を絶やしてはいけないという熱意
→戦中の物資が乏しい中での制作であり、用意周到な龍子の性格も見てとれる

3. 戦後復興をむかえて（龍子の1950年代）

■大観と龍子の再会（1950年）

- ・龍子は尊敬の念をこめて大観の書を毎年正月に床の間にかけていた
- ・大観は曼珠沙華が咲くころになると、龍子の院展に入ってきたころを回想していた

↓

第三者の仲介によって、京都での青龍展に向かう特急列車の中で大観と再会
大観「曼珠沙華を見ると、いつも君を思い出していた」「まあ一杯飲もう」
→二人の時間がまた動き出す

■雪月花展の開催（1952年）

- ・大観、玉堂、龍子によって雪・月・花を、それぞれ描いた（1952～54年）
- ・この企画は「松竹梅」にも展開（1955～57年） 龍子「まあ、気兼ねなく自分の絵を描きます」

↓

再開を果たすも残された時間は長くはなかった。1958年、大観が逝去する。

■龍子記念館竣工（1962年）

- ・祝賀会で、大観夫人の言葉を受けて流した龍子の涙
→激動の時代をこえて見えてくる二人の画家の「絆」

【ご案内】川端龍子生誕130年を記念したイベント等

記念館講座は来年度も1月、2月、3月と開催の予定です。

○名作展「崇高へのまなざし～龍子の自然讃美～」現在開催～4月12日（日）まで
本展最後のギャラリートークは、3月29日（日）13：00～です。
また、4月5日（日）「馬込文士村大桜祭」は無料開館日です。

○誕生日講演会「タツノオトシゴ」

龍子生誕130年の誕生日の講演会。画家の龍へのこだわりを焦点を当てます。

開催日：6月6日（土） 14：00～15：30 会場：大田文化の森 第3・4集会室

○生誕130年特別展「がじんしょうがいふでいっかん画人生涯筆一管（仮称）」

他館所蔵の龍子作品を中心に、大作から小品まで龍子の画業を展覧します。

会期（予定）：11月14日（土）～12月13日（日） 会場：大田区立龍子記念館